



9月お彼岸を過ぎ、ようやく涼しさを空気に感じられる日が来ました。グリラ参観詐欺のような1週間。申し訳ございませんでした。気温が下がればグリラ参観も、運動会も行ないます。ぜひお時間を作ってお越しください。

臼井幼稚園には色々なお子さんが在籍しています。特別に支援の必要なお子さんが年々増えているのは、当園のことばかりでなく、他園の園長先生方もそうおっしゃっています。そしてここ10年くらいのことですが、クラスがなかなかまとまらない、というも頭を傾げて何故だろう？と不安視しているところです。

幼稚園の設置基準の第三条において、「1学級の幼児数は、35人以下を原則とする」と定められていて、臼井幼稚園については昨今30名を下回る人数です。さらに特別支援のお子さんのサポートのために各クラス最低1人は支援の先生が入っています。

先生がクラスの全員に話をしている時、「僕はね、」、「私は、」と自分の話を始めてしまい、担任が話したくても進まないことがあるのです。その子に悪気はなく、先生との1対1の関係を求めてくるのです。でも、担任が話そうとしているのに「僕ね、」と始まったらどうでしょう。困った子、気になる子、とのレッテルを貼られてしまうこともあります。

どうしてこの子はこのタイミングで「先生、先生」と求めたのでしょうか。この答えとも言えるものを上原文先生の文章に見つけられたので、保護者の皆さまにも関係のあることですので、そのまま記載させていただきます。

以下、上野先生の文章より

人間はもともと「集団の中でつながり合って生きる動物」です。けれど他の動物とは違い、人間は、集団に入る前の段階がとても重要です。この段階で「個・自我の安定」を得ることが必要不可欠で、これがないと、集団にうまく入っていくことができません。

「ありのままを受け入れてもらえる」

この受容があつてこそ、心の奥底が安定します。記憶に残らないこの時期の対応が人間の一生を決めると言っても過言ではないのです。～中略～心の安定を得られないまま成長してしまった結果、様々な問題が起きてしまっている気がしてなりません。

女性の社会進出とともに、子どもを小さいうちから保育園などに預け、集団の中で育てる傾向があります。これはみなさんのせいではなく、社会の構造が、母となった女性も働かなくては生活していけない社会構造に問題があると私は思います。そしてもうひとつは、スマホです。赤ちゃんにお乳をあげながらスマホをいじったり、子どもに話しかけられているのに、上の空で返事をしたり、「あとで」「待って」と子どもが二の次になってしまう。

心も成長していくものです。そこを踏み外すと、次の段階に進めず、あとあとまで影響するそうです。目の前のお子さんの情緒の成長と安定のための「受容」を、ご両親も、私たち保育者もしっかりとしていく必要があると感じています。

子どもは、自分だけが受容されたいのです。「先生（パパ、ママ）が僕を見てくれている」という安心感は気持ちを安定させます。安定すると、周囲が見えてき、他の子を思いやれるのはそれからとなります。

小学校以降、学級崩壊、不登校、ひきこもりなどが社会問題化しています。虐待もあとを絶たず、増加傾向にあります。心の発達が未熟なまま身体だけ成長してしまった子ども達の出している、やるせないSOSに思えます。子ども達の心の安全基地となれるように、子育てを一緒に考えていきましょう。悩みがあれば、いつでもお話しください。

（参考：世界文化社 pripriより上原文 社会保険福祉士）

*佐倉市の美術展に昨年度出展してみましたが、園児の作品の中から数点選び出すのが心苦しいのと、どうみても保育者の手が入っている作品に金賞がついているのを見て、嫌悪感を抱いてしまい、今年度はまた出さないことにしました。

*毎年梨狩りにご協力くださっていた出山梨園様が、梨の栽培を今年より中止するとのこと。幼稚園児の梨狩りにご協力くださる梨園が見つからないので、今年度より 梨狩りは中止します。

園長 志田裕美子

<年長組今月の目標>

健康・・目標に向かって友だちと協力し、運動する。
人間関係・・友だちを応援し、参加の気持ちを持ち、
協力する喜びを知る。
環境・・戸外遊びを通じて、季節の変化に気付く。
言葉・・自分の経験を発表する。
造形・・絵手紙、描画、壁面製作
音楽・・「はたけのポルカ」「ちびっこカウボーイ」
「やきいもグーチャー」「涙と勝利と」
「トレロカモミロ」

<担任から今月のメッセージ>

長〜い夏休みが終わり、不安なく登園できるかな……
「ママがいい」と行き渋りはないかな……と心配していましたが、少しドキドキ感と距離があるなあと感じたものの、「夏休み何してた？」と聞いた途端、「プール行ったよ」
「あっ僕も行った〜」「ホテルに泊まって……」「遠いところまで行ってすごかった」「お家でゲームした」など、自分の経験を話してくれたので嬉しかったです。ただ、連休明けなど少し不安を感じる子もいますので、安心してもらえるように配慮したいと思います。

始まってから数日は「どうした！???」「もっと盛り上がり過ぎていいんだよ〜」と何度も突っ込みが入るほどおとなしく過ごしていて、大丈夫かしら……と少し心配になりましたが、元々、個々にイエーイ、ヨッシャー！！と弾け飛ばすと言うよりも、目を合わせて「うふふふふ」と周囲の様子を見ながら穏やかに笑っているクラスなので、積極性を爆発させること、仲の良い友達だけではなく、全員に関心を持ち助け合っていくことを2学期の目標に置き、たくさんの経験を積んでいきたいと思えます。

運動会ごっこでは、なんとなく勝ったら嬉しい！負けたらしょうがない……と、勝負に熱い姿が特になく、どう盛り上げていこうか悩みました。
ある時は、「今日の体育は何？」と聞かれて「暑すぎなければリレーするよ」と伝えれば、「やったー」と返ってくると勝手に想像していたら、喜んでた子よりも「ええー暑いから中がいい」と言う子の反応に衝撃を受け、この時期はみんなで走ることが楽しい〜と力を合わせるチャンスなのに、暑さのせいでリレーに対しての関心も薄いんだなあと経験不足を感じました。
他の競技に挑戦している時も、自信がないと急ぐこともなく、のんびりカメさんのような動きになっていたのも、どうしていくか何度も話し合っていました。応援している時も褒められるから声を出している子が多く、例えば玉が入ったら、一緒に喜びるところも下を向いたり、違う方向を見ているから誰かが喜んだ声を聞いて2歩、3歩遅れて喜んだり、誰も気付かなかったり、集中して取り組むことが難しく、私の雄叫びが止まらぬ毎日に……。しかし、みんなはとても素直で、話し合えば「そういう

ことか」「こうされたら嬉しい」などと気付き、次は「こうしてみよう」と1歩ずつ団結に向けて進んできました。少しずつ、負けたら悔しい気持ちも育ち、悔しいリアクションをとってくれる子も出てきました。

例年は、赤がいい人〜と聞いてチームを決めていきますが、1度くじ引きでチームを決めたら、次からもワクワク感が嬉しいようで、くじが良いと言われ、くじ引きで決めています。チームは頻繁に変更し、その都度リーダーは誰にするか、今日のメンバーは誰かをしっかり話し合うことで、1学期にはチームが分からないと言う子が多かったのですが、友達同士で教え合い、私が助けることもほぼなくなりました。

小山とともに、動きが速くなるように秘密の特訓をした後は、帰りの支度が終わった子から率先して特訓を始め、あまりの感動にすぐに小山を呼びにいき、たくさん褒めてもらいました。満更でもなくカッコいいでしょ！と誇らしげな子もいれば、絵美先生が喜んでくれたと喜び合う子もいて、自信、やる気、気合いアップに繋がっています。その日だけで終わりではなく、特訓がしっかり日課となっていますが、やらなきゃいけない！とやっているわけではなく、特訓＝遊びとして笑顔が弾けているので嬉しくてたまりません。この調子で、楽しみながら活動をしていけるようにフォローしたいと思います。

運動会当日は、一緒に応援で盛り上げていただけたら幸いです。

幼稚園最後の運動会でのみんなの活躍をお楽しみに！

山口 朱美

